京都市では，生物多様性保全 の取組を進めています！

詳しくは，**京都市生物多様性プラン～生きもの・文化豊かな京都を未来へ～**
をご覧ください。
→わたしたちの生活は，**生物多様性の恵み**に支えられていることを御存知ですか？
→**生物多様性の恵み**である京都市の資源を活用した生活や経済活動を行いましょう！

DO YOU KYOTO?
環境にいいことしていますか？

平成２９年３月発行　京都市印刷物第 283232 号

発行　京都市環境政策局環境企画部環境管理課

制作　第１章　京都市環境政策局環境企画部環境管理課
制作協力（五十音順）
「大原野森林公園」森の案内人／京都森林インストラクター会／京都府立植物園／全国カヤネズミ・ネットワーク／フィールドソサイエティー／山仕事サークル　杉良太郎

第２章　公益財団法人京都市都市緑化協会
『和の花を育てる４』取材協力（五十音順）
＜団体，企業，行政等＞NPO法人葵プロジェクト／京都駅ビル開発（株）／京都学園大学／京都市産業観光局林業振興課／京都伝統文化の森推進協議会／京都府教育委員会／京都府京都文化博物館／京都府文化スポーツ部文化芸術振興課／（株）京都放送（KBS京都）／ NPO法人KES環境機構／（株）島津製作所／民謡合唱団「篝」
＜個人＞杉村真美さん（京都学園大学大学院生）／秦賢二さん（園芸愛好家）／藤井肇さん（「大原野森林公園」森の案内人）

平成29年3月策定！
京都市環境教育・学習基本指針　検索

この印刷物は再生紙を使用しています。

未来へつなごう！
京都の生物多様性

平成28年度版

第１章　「京都市生物多様性プラン」に基づく京都市の取組
登録団体・活動紹介

第２章　和の花を育てる４「カザグルマ」「アヤメ」「カワラナデシコ」

京都市
CITY OF KYOTO

未来へつなごう!
京都の
生物多様性

目次

第1章
はじめに　生物多様性とその保全について ……1
「京都市生物多様性プラン」に基づく京都市の取組
京・生きものミュージアム ……2
京都市生物多様性保全活動登録制度 ……3
登録団体・活動紹介
- 全国カヤネズミ・ネットワーク ……4
- フィールドソサイエティー ……6
- 山仕事サークル　杉良太郎（すぎよしたろう） ……8
- 「大原野森林公園」森の案内人 ……10
- 京都森林インストラクター会 ……12
- 京都府立植物園 ……14

第2章
和の花を育てる4 ……16
- カザグルマ ……18
- アヤメ ……22
- カワラナデシコ ……28

表紙写真
上段左から ・カヤネズミ（京都府レッドデータブック:準絶滅危惧種）
・京都府立植物園のノカンゾウ（京都府レッドデータブック:絶滅危惧種）
・雲ケ畑での枝打ちの様子
下段左から ・大原野森林公園に自生するフクジュソウ（京都府レッドデータブック:絶滅寸前種）
・合併記念の森での自然観察会の様子
・法然院の森に生息するモリアオガエル

第1章

はじめに　生物多様性とその保全について

「生物多様性」ってなに？

生物多様性とは，生きものたちの豊かな個性とつながりのこと。地球上の生きものは40億年という長い歴史の中で，様々な環境に適応して進化し，3,000万種ともいわれる多様な生きものが生まれました。これらの生命は一つひとつに個性があり，全て直接に，間接的に支えあって生きています。生物多様性条約では，生態系の多様性・種の多様性・遺伝子の多様性という3つのレベルで多様性があるとしています。（引用:環境省生物多様性ウェブサイト）

生態系の多様性
様々なタイプの
自然環境があること
（森林，草原，河川，池沼など）

種の多様性
様々な種類の生きものが
生息・生育していること
（動物，植物，菌類など）

遺伝子の多様性
同じ生きものの種類の中にも
遺伝子による違いがあること
（形，模様，生態など）

生物多様性保全活動が始まっています！

私たちの暮らしは，水・食料・繊維・木材等の供給，自然災害（洪水や土砂災害）の軽減など，様々な生物多様性の恵み（生態系サービス）により支えられ，成り立っています。

とりわけ，京都市の生物多様性は，人々の安全で豊かな暮らしを支えるとともに，食（京料理，京野菜など），祭祀，庭園，茶道，生け花などの様々な伝統文化を育んできました。

しかし，人の手による自然環境の破壊，人間活動の縮小による里山の荒廃，祇園祭の粽に利用するチマキザサや葵祭に使用するフタバアオイなどの固有生物の減少など，自然環境の保全や伝統文化の継承に係る問題が発生しています。

これらの問題に対応するため，京都市内の様々な場所で，生物多様性を保全する活動が始まっています。

生物多様性保全活動の輪を広げよう！

京都市では，「京都市生物多様性プラン」に基づき，「京（みやこ）・生きものミュージアム」や「京都市生物多様性保全活動登録制度」（詳細は次ページ）を通じて，活動を促す仕組みとネットワークの構築（ネットワークづくり）に取り組んでいます。

本冊子は，「京都市生物多様性保全活動登録制度」に登録されている保全活動団体とその活動内容を紹介することにより，生物多様性について理解し，保全活動に参加される方が増え，市内における生物多様性保全活動の輪が広がることを目的として作成しました。

「京都市生物多様性プラン～生きもの・文化豊　かな京都を未来へ～」に基づく京都市の取組

◎活動を促す仕組みとネットワーク　の構築　～ネットワークづくり～

京（みやこ）・生きものミュージアム～京都市生物多様性総合情報サイト～

京都の歴史や伝統文化を育んできた生物多様性に関する情報を配信し，皆様に生物多様性について理解を深めていただくための，生物多様性専用ホームページです。

生物多様性について楽しく学べる情報はもちろん，本市や様々な団体が主催するイベント情報や，専門家によるコラムなどを掲載しています。さらに，市内で見つけた生きものの発見報告や，生物多様性に関する意見交換を行う掲示板など，皆様に参加していただけるコンテンツも用意しています。

是非御覧ください。

京・生きものミュージアム
http://ikimono-museum.com/

京都市生物多様性保全活動登録制度

生物多様性保全活動に参加を希望する市民の皆様と，市民の皆様の協力を希望する保全活動団体を結び付けることで，生物多様性保全活動が効率的かつ効果的に行われることを目的とした制度です。登録の受付や制度の運用は，「京・生きものミュージアム」において行っています。

登録制度を活用してみませんか？

こんなあなたのための制度です！

登録していただくと・・・

①最新情報を入手できます！
生物多様性に関する様々な情報をメールで受け取り，参加したいイベント等を見つけることができます。

②団体の方は，情報発信が可能になります！
開催するイベント等の情報を「京・生きものミュージアム」に掲載し，広く参加を呼びかけることができます。

次ページから，登録されている保全活動団体と，その活動内容について紹介します。

その他の取組の紹介

◎生きものの生息環境の保全

京（みやこ）の生きもの・文化協働再生プロジェクト

京都の祭りや文化を支えてきた生きものの保全・再生のための取組を認定し，必要に応じて技術的な支援のために専門家を派遣する制度です。

チマキザサ（粽）

フタバアオイ（葵祭）

◎生物多様性を理解し，保全に向けて行動する市民の支援　～人づくり～

京都生きもの100選

京都市の生物多様性の大切さを分かりやすく紹介するために，四季折々に見られる本市の身近な自然に関する情報を，市民の皆様の投票により選定し，取りまとめたものです。

深泥池

京都御苑

カヤネズミの保護活動が「京都生きもの100選」に選定されました!

全国カヤネズミ・ネットワーク（活動場所：桂川）

カヤネズミと桂川

カヤネズミは，草むらに住む日本一小さなネズミです。体長（頭からおしりまでの長さ）約6cm，体重7～8g（500円硬貨1枚分）しかありません。長い尾を草の葉や茎に巻き付けて，草を上り下りしたり，食事や巣作りをします。食べ物はイヌビエなどの小さな草のタネや，バッタなどの昆虫です。名前のとおり，主にオギやススキなどの草原（カヤ原）に住み，これらの植物の葉を編んで野球ボール大の巣を作り，子育てをします。桂川のカヤ原には，カヤネズミが営巣に好んで利用するオギが多く，貴重な生息地となっています。

カヤネズミと巣

桂川のカヤ原

草地の減少とカヤネズミの危機

かつて，カヤ原から採取された植物（茅草）は，屋根材や牛や馬の飼い葉，田畑の肥料など，日々の生活に利用されていました。現在でも，京都の多くの神社で6月30日に行われる夏越祓の「茅の輪くぐり」に茅が用いられるなど，文化とも深い関わりがあります。しかし，生活の変化で茅の利用価値が失われ，カヤ原は開発されたり，河川改修で埋め立てられて，全国的に減少しています。さらに，外来植物やクズが増えるなどしてカヤ原の環境が悪化し，カヤネズミは絶滅の危機に直面しています。京都府版のレッドデータブック※では「準絶滅危惧種」に選定されています。桂川でも，オギ原がクズや外来種に覆われる場所がだんだんと増え，カヤネズミにとって住みづらい環境に変わってきています。

※レッドデータブックとは，絶滅のおそれのある野生生物の情報をまとめた本のこと。

クズに覆われたオギ原

保護への取組

全国カヤネズミ・ネットワークでは，カヤネズミの保護への取組として，桂川のオギ原の保全活動を行っています。平成26年には，河川改修工事で失われた生息地のオギ原を再生するために，国土交通省淀川河川事務所と地元の自然保護団体（乙訓の自然を守る会）との協働でオギの移植を行い，カヤネズミの生息面積の増加に成功しました。

再生したオギ原

平成27年からは，大阪自然環境保全協会と協働して，再生したオギ原に増えつつある外来種（セイタカアワダチソウやイタチハギなど）を刈り取り，駆除しています。また、オギの生育状況やカヤネズミの生息状況を調べるために，モニタリング調査も行っています。さらに，桂川のカヤネズミやオギ原の保全について，多くの方に関心や理解を深めていただきたいと考え，生きもの観察や，カヤ原の中に実際に入ってみる体験ツアーなどを開催しています。

調査風景

カヤ原を主な住みかとするカヤネズミは，良好な河川や草地環境の指標種とされます。100年後の未来に向けて，カヤネズミが住む桂川の貴重な自然環境を，私たちみんなで守り伝えていきましょう。

カヤ原ツアーの様子

Topics

全国カヤネズミ・ネットワークの京都桂川での生物多様性保全活動が，公益社団法人日本ユネスコ協会連盟が実施する，第7回「プロジェクト未来遺産2015」に登録されました。

Topics

全国カヤネズミ・ネットワーク代表・畠佐代子著『すぐそこに、カヤネズミ―身近にくらす野生動物を守る方法』が，2016年第63回産経児童出版文化賞産経新聞社賞を受賞しました。

【問合せ先】全国カヤネズミ・ネットワーク
HP：http://kayanet-japan.com/　E-mail：info@kayanet-japan.com

「京都生きもの100選」に選定されました!

フィールドソサイエティー（活動拠点：左京区大文字山・法然院の森）

私たちの活動

法然院森のセンター

フィールドソサイエティーは，身近な自然から学ぶことをモットーに体験型環境学習を実践しています。「法然院森のセンター」（平成5年開館）を拠点とした活動は，自然観察，森の手入れ，講演会，そして自然に親しむワークショップなど，多岐にわたっています。

「森のセンター」は楽しさいっぱいの施設です。展示では実物に触れることもでき，文庫では自然・環境関連の図書やたくさんの絵本を閲覧できます。そして，すぐ目の前には様々な生きものが息づく森が広がっています。木々の間を縫うトレイルは大文字山へと続き，自然散策が楽しめます。

身近な森は自然の宝庫

私たちの主な活動フィールドである法然院の森と大文字山周辺は，都市の近くにありながら生きものの宝庫です。麓の森はシイなどの常緑樹が多く，静かな佇（たたず）まいが漂います。谷筋から尾根筋へ歩みを進めれば，落葉広葉樹やアカマツなどが多い明るい森も味わえます。森には，様々なきのこ，昆虫，野鳥，そして哺乳類などが生息しています。フクロウやムササビも暮らしています。夜行性で簡単には観察できませんが，森の豊かさを象徴する存在です。また，法然院境内の池や哲学の道に沿った琵琶湖疏水（分線）などでは，モリアオガエルやゲンジボタル，マガモやコサギなど，四季を通じて水辺の生きもの観察が楽しめます。

ムササビ

モリアオガエル

活動プログラム

私たちの主な活動を紹介します。

「森の子クラブ」は小学校3年生から中学生対象の環境学習クラブです。月例で，野外での体験を通して身近な自然を学んでいます。活動記録「もりのこつうしん」には毎月たくさんの笑顔と生きものたちが登場します。

自然観察会

「シリーズ自然観察会」は季節ごとに，野鳥，きのこ，苔などとテーマを絞って観察に出かけるプログラムです。専門の講師に学ぶことによってそれぞれの世界へと引き込まれます。

森の手入れ

「観察の森づくり」は市民によるお寺の森の手入れです。誰もが安全に森を楽しめるように観察路を整備したり，樹木名札を設置したりしています。

「森の教室」では生きものの探究，環境問題など，多彩なテーマでの講演を行っています。

「オープンルーム」は森のセンターを会場にした自然に親しむワークショップです。きのこ染め，木の実工作，木工体験などを開催しています。

オープンルーム

これらの活動は季刊の会誌や，HPなどで案内しています。その他，他の団体との共催事業や環境学習への講師派遣なども行っています。

Topics

平成28年度（第14回）京都環境賞を受賞しました!

フィールドソサイエティーは，寺と市民の協働による，環境学習を通じた環境共生型の地域づくりを目指す活動が認められ，平成28年度（第14回）京都環境賞※を受賞しました。

※京都環境賞とは，京都市が，環境に関する市民の関心を高め，様々な実践活動の更なる推進を図ることを目的として，環境の保全に貢献する活動を実践されている市民や事業者を顕彰する制度です。

表彰式

【問合せ先】フィールドソサイエティー
法然院森のセンター　TEL：075-752-4582　FAX：075-752-4583
E-mail：moricent@deluxe.ocn.ne.jp，HP：http://fieldsociety.la.coocan.jp

「京都生きもの100選」に選定されました!

山仕事サークル 杉良太郎（活動場所：北区雲ケ畑）

サークルの概要

枝打ちの様子

山仕事サークル「杉良太郎」（通称:杉良）は，山仕事体験を通じて山主の方々と交流を深め，森林資源の利用や山村・林業の活性化を推進することを目的として，平成10年から京都市北区雲ケ畑地域で活動を続けています。サークルの会員は30人程度で，多くは京都大学の学生ですが，一部社会人も在籍しています。

活動は，毎月2，3回程度，1回につき10人前後が，山主の方々の御協力，御指導のもと，植林，枝打ち，下刈り，間伐，地ごしらえなどの一連の林業作業に取り組んでいます。また，伐採した木を利用し，木工，炭焼き，薪割りなどを行っています。

雲ケ畑森の文化祭

杉玉作り

「雲ケ畑森の文化祭」は，毎年秋に雲ケ畑で開催している，森林や林業をテーマにしたお祭りで，杉良メンバーが実行委員会として企画・運営を進めています。平成15年から開催しており，街の人を呼び込み，雲ケ畑の魅力を知ってもらうほか，雲ケ畑の薪を使った料理・雲ケ畑のスギの葉で作る杉玉といった企画を通して，森林資源の利用促進にも積極的に取り組んでいます。

雲ケ畑の紹介と杉良の目的

雲ケ畑の風景

鴨川の源流，雲ケ畑地域には豊かな山村環境が残っており，オオサンショウウオ等も生息しています。

京都の街から車で30分ほどの場所にあり，現在170人余りが住むこの静かな山村では，今から40～50年ほど前までは林業従事者も多く，村に活気がありましたが，高度経済成長期を境に徐々に日本の林業は下降気味となり，雲ケ畑の専業林家もほとんどいなくなってしまいました。

薪割りの様子

杉良は，この雲ケ畑という身近な山村地域に親しみを感じ，大事にしたいという思いから，実際に林業を体験し，現場で様々な話を伺うことにより，環境保全や山村活性化，資源活用について各メンバーが認識を深めています。また，京都大学桂キャンパスにて開催されている竹林保全ボランティアに指導補助役として参加し，竹の間伐やタケノコ掘りの方法を市民の皆様に伝えることで，環境保全に対する意識の普及も行っています。

今後も，これらの活動を通して，京都市民に，ひいては日本全国に，林業や森林資源の魅力を大学生の目線から分かりやすく発信していきたいと思います。

Topics

平成27年度（第13回）京都環境賞特別賞（環境未来賞）を受賞しました!

山仕事サークル杉良太郎は，大学生による地域の活性化や自然環境の保全に取り組む活動が認められ，平成27年度（第13回）京都環境賞特別賞（環境未来賞※）を受賞しました。

※環境未来賞は，「大学のまち」，「学生のまち」にふさわしい，未来の京都を担う若い世代の活動を促進するために，平成27年度に新たに京都環境賞特別賞に追加された賞です。

表彰式

【問合せ先】山仕事サークル　杉良太郎　E-mail：sugiryo_taro@yahoo.co.jp

自然保護活動が「京都生きもの100選」に選定されました!

「大原野森林公園」森の案内人（活動拠点：西京区大原野森林公園）

大原野森林公園

森の案内所

「自然そのものが公園施設」「自然とともに市民とともに」を基本テーマに平成12年に開園しました。京都市の最西端・西山に位置し，134haもの広さを持っています。また，公園の入口，標高約400mに位置する森の案内所は，里山管理の拠点になっており，研修や休憩に利用することができます。

園路は，案内所を起点に東尾根コースと西尾根コースがあり，それぞれポンポン山に向かっています。また，保護区域及び東西尾根ルートの竈ヶ谷（かまがたに）側への立入には，事前の「保護区域立入届出書」と，入園後の「保護区域立入報告書」が必要です。

アクセスは，阪急バスの南春日町か善峯寺バス停から徒歩で2時間弱かかります。

森の案内人とは

平成16年3月から活動を始め，森林公園を人と自然が触れ合える場とするため，公園内の動植物を解説するインタープリター（自然と人との仲介役）を目指しています。現在8名が登録しており，週2回水曜日と土曜日（又は日曜日）に3人体制で業務を行っています。活動は，主に巡視やマナーの啓発，動植物の調査保全活動，希少植物の自生地に張った防獣フェンスやネットの点検とメンテナンスです。夏休みには，地元小学校の課外活動のお手伝い，申込制による園内の案内なども実施しています。

フクジュソウ自生地の草刈り

近隣の小学校による課外活動

大原野森林公園の生きものとその保全

大原野森林公園は生物多様性豊かな公園で，今までに確認した生きものは，植物700種以上，キノコ約400種，昆虫1,800種以上，鳥類91種，哺乳類28種，爬虫類12種，両生類11種などです。

公園で一番人気の高いのがフクジュソウで，毎年2～3月の開花中に約1,500人の方が訪れます。ほかにも，春から夏にかけての野鳥観察，夏から秋にかけてのキノコ観察，晩秋の全山紅葉などを楽しむことができます。

しかし，平成17年頃から野生の鹿が増え，園内の植物を食べ始めました。平成19年にはヤマブキソウの群落が消滅したため，急きょ防獣ネットを張りました。その後，フクジュソウ自生地やオオキツネノカミソリ自生地など，希少種が多い場所も取り囲んだところ，ネットを張った部分の植物は回復し，それに伴い昆虫や野鳥も増えましたが，一度荒らされた場所が元に戻るまでには2年掛かりました。一方，囲いの外側では，鹿が食べない植物以外は下草が全く見られない状態のままです。

今後の目標は，以前植物が多く見られた谷筋でのネットによる囲いを増やし，生きものが安定的に生育できる空間を更に増やしていくことです。

フクジュソウ見学者

森を食べ尽くす案内所周辺のニホンジカ

防獣フェンスの効果 内と外の違い

Topics

「生物多様性保全上重要な里地里山」（500箇所）に選ばれました!

平成27年12月に，環境省では，様々な命を育む豊かな里地里山を，次世代に残していくべき自然環境の一つであると位置づけ，「生物多様性保全上重要な里地里山」（500箇所）を選定しました。「大原野森林公園周辺」もその一つとして選ばれており，生物多様性保全の取組の促進・拡大につながることが期待されています。

【問合せ先】森の案内所　TEL/FAX：075-333-8229
（開所日：水・土・日・祝日（11～1月までは土・日・祝）。ただし，春，夏休みは毎日。年末年始は休所。）
大原野森林公園運営管理協会　TEL：075-332-6444
京都市建設局北部みどり管理事務所 TEL：075-882-7019 FAX：075-882-7300

京都森林インストラクター会

森林インストラクターとは

森林インストラクターとは，森林を利用する一般の人に対し，森林や林業に関する適切な知識を伝えるとともに，森林の案内や森林内での野外活動の指導を行うため，平成3年に農林水産省が創設した資格です（現在は一般社団法人全国森林レクリエーション協会が認定）。

京都森林インストラクター会は，京都在住の森林インストラクターを中心に組織する団体で，平成10年に発足しました。京都府内において，森林観察や林業体験(人工林は森林の約4割を占める)，木工・つる細工など，森林の大切さや楽しみ方を伝えるための活動を行っています。

活動拠点と主な活動内容

■衣笠山「遊々の森」（金閣小学校 森林教育活動の支援）

京都市立金閣小学校では，平成13年から近くの衣笠山で森林教室を行なっていて，京都森林インストラクター会はその指導役を担っています。

衣笠山には国有林があり，平成15年に締結された「遊々の森」協定を機に，巣箱かけやキノコの菌打ちなど学習の幅が広がっています。現在では，3年生から5年生まで段階的に内容を深めて学習しています。

衣笠山は，近隣の他の小学校や京都モデルフォレスト協会主催の親子観察会の場としても親しまれています。

■安祥寺山「ふれあいの森」（安祥寺山京都森林インストラクターの森活動）

平成12年6月に，当会と近畿中国森林管理局が「ふれあいの森における自主的な森林整備活動の協定」を結び，京都市山科区の安祥寺山国有林で活動を行っています。森林歩道整備や樹名板取付けなども行ってきましたが，ヒノキ林の除間伐作業や枝落としなど，林業的な作業にも取り組んでいるところです。また，各種団体の体験活動の場として，自然観察や間伐体験，ベンチ作りなど，多彩な活動を展開しています。

■「京都の森を守ろうウォーク」（京都伝統文化の森推進協議会との連携）

「京都の森を守ろうウォーク」は，京都東山の国有林を拠点に活動する京都伝統文化の森推進協議会が，林野庁，京都市，朝日新聞社などと共催して開催されます。京都森林インストラクター会は，参加者の皆さんのガイド役。森の植物をはじめとした生きものや，ナラ枯れ被害，歴史・文化について解説し，京都の風景に欠かせない東山の森を次の世代に引き継ぐため，どのように行動すればよいか参加者と一緒に考えます。

■その他にも･･･

「京都生きもの100選」に選定されました！ 花脊の天然伏条台杉

「京都モデルフォレスト運動」との連携，教育関係者の森林活動支援，ガールスカウト京都府連盟の森林活動支援，「企業・団体の森林づくり」支援，「山村都市交流の森（花脊）」活動支援，「SKYの森サークル」の活動支援など，京都府内一円で活動を行っています。

Topics

平成28年度第5回親子生きもの探偵団

平成28年10月に「合併記念の森」（右京区京北）にて開催した「親子生きもの探偵団※」では，京都森林インストラクター会の方々に講師を務めていただきました。当日は32名の親子が参加し，様々な生きものに実際に触れながら，名前や特徴を学びました。豊かな自然環境を体感する貴重な機会となりました。

※「親子生きもの探偵団」とは，京都市の生物多様性を学び，保全に向けて行動する人を育てる環境教育・普及啓発の一環として開催している，一般の親子を対象にした自然観察会です。

【問合せ先】京都森林インストラクター会
E-mail：info@kfianet.com　　HP：http://www.kfianet.com/

「京都生きもの100選」に選定されました!

京都府立植物園（左京区）

生きた植物の博物館

大正13年1月1日に，「大典記念京都植物園」として一般開園が始まり，平成29年1月1日で94年目を迎えました。この歴史の中，「生きた植物の博物館」として発展を続け，京都の環境下で生育できる日本各地や世界中の様々な植物1万2千種類を栽培展示し，植物の観賞を通じて府民の憩いの場として，また，植物学の学習・教育の場として貢献しています。植物園の中央付近には，開園以前からある半木神社の鎮守の森として「なからぎの森」が現存しており，樹齢300年と推定されるムクノキやカゴノキ，イチイガシなど，当時の山城盆地の姿をとどめる学術的にも貴重な植生を，今なお残しています。

開園前の「なからぎの森」

植物の多様性保全に向けた取組

植物園のもう一つの役割として，（公社）日本植物園協会に加盟する他の植物園と連携し，自然環境下では絶滅の危機に追いやられる希少植物の生息域外保全にも取り組んでいます。絶滅危惧植物等栽培温室や絶滅危惧種園の整備も進め，近畿地方の絶滅危惧植物やラン科植物，カンアオイ属，ホトトギス属の植物を中心に，日本全体で1,779種ある絶滅危惧植物のうち，500種を収集保全することを一つの目標として活動を進めています。

「絶滅危惧植物等栽培温室」での栽培状況

オグラコウホネ（京都府絶滅寸前種）

四季を通じた様々な植物の観察

植物園では，1月のロウバイや洋ランなどに始まり，サクラ，バラから紅葉まで季節に応じた彩りを楽しめるほか，日本で初めて露地で開花させたカナリア諸島原産のエキウム・ウィルドプレッティーなど，家庭では育てることが難しい世界の様々な植物も植栽展示しています。また，花だけではなく季節ごとの生育ステージを観察する楽しみ方もおすすめです。

エキウム・ウィルドプレッティー

世界中の珍しい植物の観察

観覧温室では，熱帯や亜熱帯地域の植物を中心に約4,500種類を展示しています。

日本ではなかなか出会うことのできない大人気の「アフリカバオバブ」や，15年前にマダガスカルから導入し，平成28年8月に当園で初開花した「フニーバオバブ」，世界最大のラン「グラマトフィルム・スペキオスム（タイガーオーキッド）」，ナミブ砂漠に自生する「キソウテンガイ」など，世界の様々な植物を，ジャングル室や砂漠サバンナ室など生育環境の異なる8つのエリアに分けて展示しています。

アフリカバオバブ

フニーバオバブ

Topics

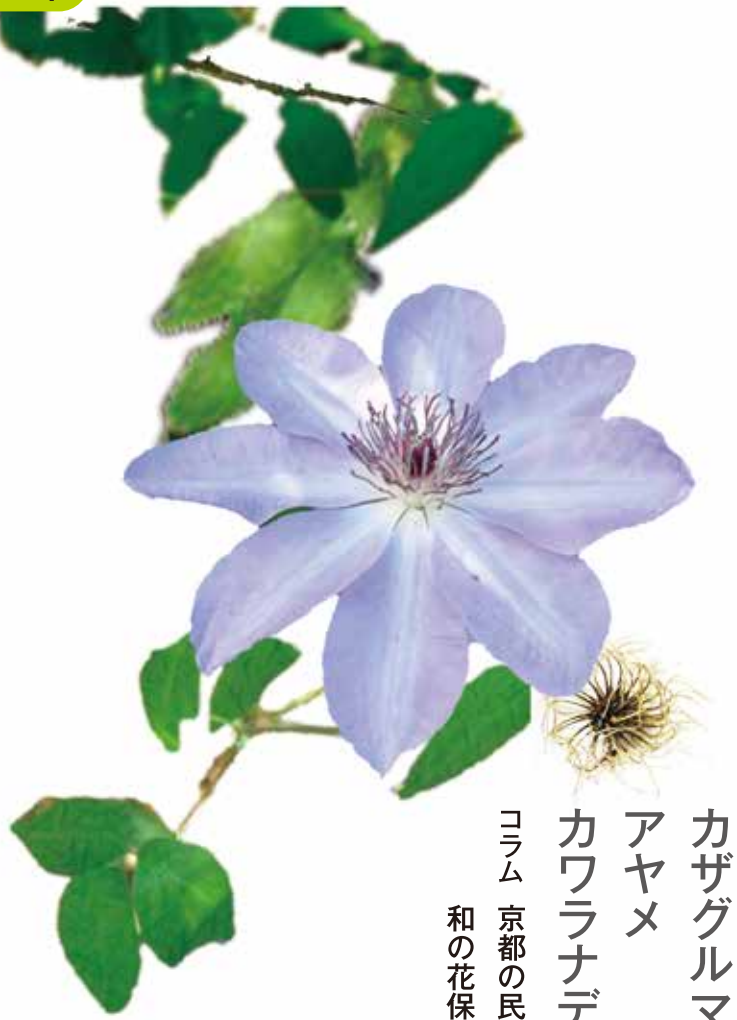
平成28年度第4回親子生きもの探偵団

平成28年8月に開催した「親子生きもの探偵団」では，京都府立植物園の職員の方に講師を務めていただきました。当日は29名の親子が参加され，園内の植物を観察するとともに，絶滅危惧植物等栽培温室や観覧温室も見学し，アフリカバオバブ等の花を観賞することができました。参加者たちにとって，身近なものから貴重なものまで，多様な植物について学ぶ，いい機会となりました。

【問合せ先】京都府立植物園
TEL：075-701-0141　　HP：http://www.pref.kyoto.jp/plant/

第2章

和の花を育てる 4



カザグルマ
アヤメ
カワラナデシコ
コラム　京都の民謡と植物
和の花保全のネットワーク

※写真はカザグルマ

制作協力：公益財団法人 京都市都市緑化協会 KYOTO CITY GREENERY ASSOCIATION

第2章は，公益財団法人京都市都市緑化協会の監修で制作しました。
平成26年3月に同協会が発行した「和の花を育てる1」，平成27年1月に発行した「和の花を育てる2」，平成28年3月に発行した「和の花を育てる3」の続編となっています。

はじめに

かつて京都の暮らしの中で利用され，身近に親しまれてきた植物は，生活様式や都市・森林の環境の変化などで失われつつあります。

冊子「和の花を育てる」シリーズでは，京都ゆかりの様々な植物について紹介しており，今回は，カザグルマ，アヤメ，カワラナデシコの3種を取り上げています。いずれも，現在では私たちの暮らしの中で身近に触れることが少なくなっている植物です。

また，京都で歌い継がれてきた遊び歌や仕事歌など，京都府下に残る民謡の中に登場する植物についても紹介しています。

これまでに紹介した植物
「和の花を育てる1」:エイザンスミレ，フタバアオイ，オケラ，フジバカマ
「和の花を育てる2」:キキョウ，ヒオウギ，キクタニギク
「和の花を育てる3」:ショウジョウバカマ，クリンソウ，オミナエシ

植物に接する際のマナー

野生植物を絶滅に追いやる主な原因の一つは，園芸目的の乱獲といわれています。

「美しいから，かわいいから」といって，野山から植物を持ち帰らないようにしましょう。

山野草は種から花を咲かせるまでに，長いもので10年程かかるものもあります。また，掘り起こして持ち帰っても，そのほとんどは根付かず枯れてしまいます。

山野草は，信頼できる山野草店から入手しましょう。

カザグルマ 風車（キンポウゲ科　落葉つる性植物）

・学名：*Clematis patens*
・分布：本州～九州北部，朝鮮半島・中国（東北の南部）
・花期：5～6月
・京都府RD※：絶滅寸前種（2002年版まではリスト外）
・環境省RD：準絶滅危惧（NT）
※レッドデータブック（以下「RD」という。）

日本原産のカザグルマ
花びらに似たがく片は7～8枚

中世のヨーロッパにクレマチス旋風

日本原産のカザグルマは，落葉性のつる植物でクレマチスの原種の一種です。江戸時代の百科事典「和漢三才図会」には，本名は未詳としながらも，名は風車草と紹介されています。世界に自生するクレマチス（センニンソウ属）は，石灰岩地帯の林縁で雨量の多い温帯に生育し，約250種あるとされています。

カザグルマによく似た，中国原産のクレマチスであるテッセンは，がく片が6枚あり，日本では室町時代頃から長く愛でられてきました。カザグルマとテッセンは，クレマチス属の仲間の中でもひと際華やかな大輪を咲かせます。

1800年代のヨーロッパでは，これら日本と中国原産のクレマチスが持ち込まれ，園芸家が夢中になって品種改良し，現在では300種以上も栽培されています。日本のカザグルマは，1836年にシーボルト（独）が日本からヨーロッパへと持ち帰りました。また，同じく大輪型の中国原産のテッセンは，1805年にツンベリー（スウェーデン）によって，もう一つの中国原産のラヌギノーザは，1850年ロバート・フォーチュン（スコットランド）によってヨーロッパに渡りました。それまで，ヨーロッパで見られるクレマチスは，小さな釣鐘型の花しかなかったため，日本原産や中国原産の大輪型は非常に珍重されました。

【参考文献】「講談社園芸大百科事典フルール第4巻」講談社(1980)

カザグルマの生息域外保全

京都市都市緑化協会で保全しているカザグルマは，京都市西京区の大原野で2001年に確認されたものです。また，同様に保全しているヒオウギ等の希少植物も，同地域で自生していたものです。

しかし，現在では増えた野生のシカに植物が食べつくされ，その地に姿はありません。京都市都市緑化協会では，2002年に現地で挿し穂を採取したものを殖やしています。

生息域外保全
自生地から一時避難させて栽培します！

その他，日本に自生するクレマチスの原種

日本に自生するクレマチスの原種は約20種あり，カザグルマのような大輪型以外のものでは，ハンショウヅルのような釣鐘型のもの，センニンソウのような小型のものなどがあります。

ハンショウヅル 5月

ボタンヅル 8月

センニンソウ 8月

トリガタハンショウヅル 5月　京都府RD:準絶滅危惧種

カザグルマ

大原野で以前見られた自生するカザグルマの様子。梅の木の側で育ち，花を沢山咲かせていました。

樹木の木陰となるような，乾燥を防げる場所が適しているため，大きく育ったようです。

カザグルマの特性

カザグルマは剪定なし!
クレマチスは年4回剪定!

カザグルマは,昨年伸びた枝に花芽が付いて花が咲くため,地植えの場合は,剪定せずに育てます。つるが伸びすぎる場合は,不要なつるを伏せて埋め,取り木で増やすと良いでしょう。

鉢植えの場合は,春先に花芽と葉芽を確認しながら,花芽の無い不要なつるを剪定すると良いでしょう。

一方,園芸品種のクレマチスなどは,約60日ごとに1回開花し,花後すぐに剪定することで,5〜11月までの間に4回花を咲かせることができます。花は次第に小さくなります。

●カザグルマは剪定しない
●園芸品種クレマチスの剪定

5月初め開花後…… 1回目
7月開花後…… 2回目
9月開花後…… 3回目
11月初め開花後……4回目

◆栽培

【日頃の手入れと水やり】

半日陰のやや湿った場所を好みます。真夏は,日陰の方が良く,水切れに注意します。また,冬場も乾燥しないように湿り気を保ちます。鉢の上や根元に腐葉土や敷きワラなどマルチングを行うと水分が保てます。多肥を好むので,夏と冬以外は月に1回置き肥をすると花芽が良く付きます。

【用土】

鉢で育てる場合は,水はけの良い土を深めの鉢に準備します。植え替えは2〜3年に一度,10〜11月頃に行うと良いでしょう。

【殖(ふ)やし方】

実生(みしょう)と挿し木で殖やせますが,挿し木が一般的です。温度・湿度共に高い6〜7月に挿し木にしますが,1週間は水やりを念入りに行います。来春までそのままにしておき,新芽が出てきたら植え替え,根に気をつけて支柱を添えます。

【病害虫】

4月に花芽を害虫に食べられないよう注意します。

カザグルマの種

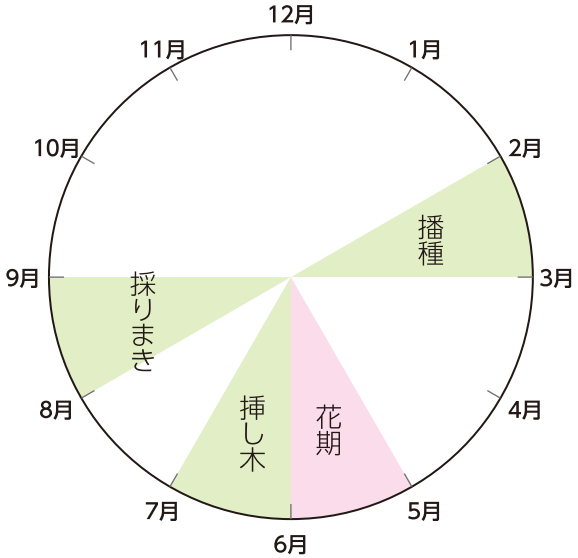
花後,夏から秋にかけて綿毛のような種ができます。一つずつほぐして,採りまきして育てます。

栽培スケジュール

【播種(はしゅ)の方法】

夏頃には種ができます。8〜9月に採りまきするか,2〜3月の春先に種まきします。

球状の綿毛となっている種は,バラバラにして4〜5粒ずつまきます。播種後は,日陰に鉢を置きます。発芽するまで1年かかります。



難しそうに思ったけど,意外と簡単に長いこと花を楽しめるんやなあ。わしでもできたわ。

カザグルマ京の口伝(くでん)

「カザグルマは何しろつるは切るな」ですよ。昔から,「カザグルマの足元に生えている雑草は刈るな」とも言いますよ。園芸種のクレマチスにも通じますが,地際のつるに直射日光が当たると乾燥で枯れることがあるので,常に日陰にして湿度を高めることが大切ですよ。

アヤメ 文目（アヤメ科　多年草）

・学名：*Iris sanguinea*
・分布：北海道～九州，
　　朝鮮半島，中国大陸東北部，シベリア東部
・花期：5～6月
・京都府RD：絶滅危惧種
・環境省RD：記載なし

アヤメは日本に自生するアヤメ科の多年性植物です。姿のよく似たカキツバタやハナショウブは水辺の植物ですが，アヤメは乾燥した土地に生育します。アヤメの漢字表記には諸説あり，江戸後期以前の和歌などに登場する表記「菖蒲」は，ハナショウブやサトイモ科のショウブではないかともいわれています。

アヤメは，30～40㎝とショウブなどに比べて背丈は低く，葉が細身で真っ直ぐ伸びます。乾燥に強い花で，初夏には優美な大輪を咲かせ，花壇などの植栽として涼やかな風景を作ります。

ショウブの花
（サトイモ科）

野生のアヤメ（写真上）と白花のアヤメ（写真下）

アヤメの花房の付け根部分には，黄色と紫色の文目模様（虎斑模様）があるのが特徴です。

公家屋敷である冷泉家の庭には白花のアヤメが植えられており，江戸時代の品種といわれています。
（撮影:藤井肇氏）

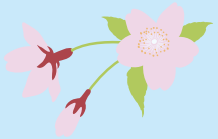
虎斑
トラの縞模様

“あやめ”という名の娘　映画「祇園祭」（1968年公開）

毎年，祇園祭の山鉾巡行を中心に，4日間程度，京都文化博物館にて映画「祇園祭」が上映されます。この映画は，原作は西口克己，脚本は鈴木尚之，清水邦夫，企画は伊藤大輔，監督は山内鉄也，撮影は川崎新太郎，キャストは主役に中村錦之助，ほかに三船敏郎，渥美清，田中邦衛，高倉健，美空ひばり，北大路欣也らが登場し，制作スタッフ俳優陣とも豪華なメンバーで構成された，幻の映画ともいわれています。

映画では，室町時代に町衆や農民が一丸となって祇園祭を復興させていく様子が描かれています。興味深い登場人物に，岩下志麻が演じる「あやめ」を名乗る娘がいます。あやめは，永井智雄演じる庭造りの名手善阿弥の娘で，芯が強く，スッと背筋が伸びた様子は，アヤメの花のイメージそのものです。横笛の名手であるあやめが，祇園ばやしを吹くシーンは，脚色されてはいるものの，祇園祭の復興の様子を回想させてくれます。（写真:京都文化博物館所蔵）

一でせきせき～手合わせ～（舞鶴市小倉）



一で　せきせき　二で　かきつばたね
三で　下り藤　四で　獅子牡丹ね　五つ　い山の　千本桜ね
六つ　紫　色よく染めてね　七つ　南天　八つ　山吹とね
九つ　小梅を　色よく染めてね　十で　殿さま　葵のご紋ね

●一般に，「せきせき」はセキショウのこととされています。「せきせき」が「水仙」や「たちばな」になるなど，地域によって歌い替えられることもあるようです。

機屋唄　（熊野郡久美浜町）

〽立てばシャクヤク　座ればボタン　歩く姿は　百合の花
〽わしとお前は　せんよの椿　花は咲いても　実はのらぬ
〽一度しおれて　二度咲く花は　アヤメの花か　カキツバタ…

●丹後ちりめんなどの織物を，手機で織っていた頃に歌われた仕事歌です。女性の織手が糸を繰り巻き取る様子が歌われる途中のくだりです。

【参考文献】京都府教育委員会「京都府の民謡-民謡緊急調査報告書」（1983）

アヤメの特性

江戸時代の百科事典「訓蒙図彙」に，中国原産のアヤメとして馬蘭が紹介されています。アヤメはハナショウブのように熱狂的に品種改良されることはなく，観賞用としては，水辺に咲くカキツバタやハナショウブが人気を得ていたようです。

◆栽培

【日頃の手入れと水やり】

1年を通して風通しの良い場所に鉢を置き，よく日光に当て，用土が乾いたら水をやります。大きく育てたい時は，地植えにします。地植えの場合，水やりは不要です。

【用土】

水はけの良い土に植えます。

【殖やし方】

植え替えは毎年，花が終わってすぐに行います。鉢植えの場合は，7号鉢に3芽ぐらいを植えます。
種は花後に採りまきし，実生でもよく育ちます。

【病害虫】

特に心配はいりません。

アヤメの見分け方

現在は，アヤメ，カキツバタ，ハナショウブ，ショウブはそれぞれに異なった種として扱います。

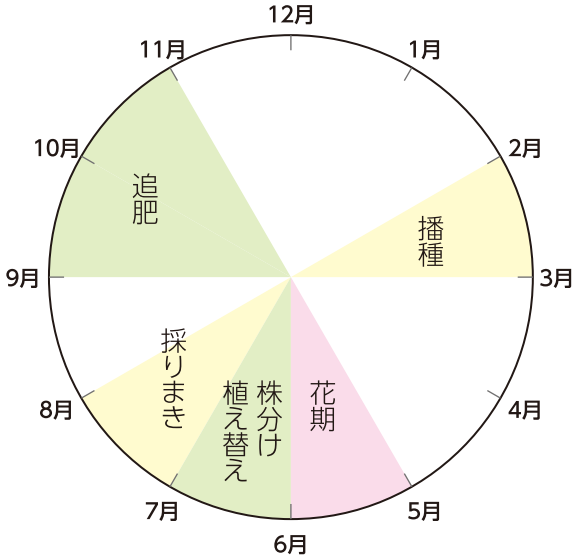
アヤメ，カキツバタ，ハナショウブはアヤメ科で，中でもアヤメが一番早く5月上旬から咲き始めます。背が高くなるのはハナショウブで，7月上旬の一番遅くまで花が楽しめます。これら三つに対し，ショウブはサトイモ科の植物で，5月の節句には，湯船に入れ，ヨモギなどと共に玄関屋根の上に上げて，厄除け祈願に使用します。花は仏炎苞で目立ちませんが，葉全体に芳香があり，根は漢方にも利用されます。

生育場所の違い
左から，アヤメ，カキツバタ，ハナショウブ，ショウブ

栽培スケジュール

【播種の方法】

種は，7～8月に採りまきするか，翌年の2～3月上旬にまきます。



鉢植えで育てやすいし，
自宅で楽しむのにはいいのとちがう。

アヤメ京の口伝

秋にしっかり肥料をやると，ええ花咲くで。

花の踊 ～雨乞いの歌～（左京区大原）

〽花の踊りを　踊ろよ　さあ踊ろよ　春の花には
なにが咲く　春の花には　なにが咲く　梅に柳を
植えまぜて　梅に柳を　植えまぜて　桜花散るやら
みごと　桜花散るやら　みごと
（アーテツ　テンテコ　テンテコテン
アーテツ　　テンテコ　テンテコ　テンテコテン…）

〽花の踊りを　踊ろよ　さあ踊ろよ　夏の花には
なにが咲く　ぼたんしゃくやく　百日の花
あおい花咲くやら　みごと

●写真は，鮮やかな夏の花，ボタン。夏に咲く百日の花は，ヒャクニチソウやサルスベリと推測されますが，どちらも江戸時代に渡来したものです。

京都の民謡と植物

民謡には，各土地で風土と交わる暮らしの様子が歌われています。日本全国には，農耕に関して共通性のある仕事歌があり，稲作，田植え，苗取りなど，田や自宅の仕事場，庭で歌われてきました。田畑のように協働によって進められていく仕事では，調子を合わせる仕事歌が生まれました。また，多くの歌には，地域の身近な生物や植物がたくさん登場します。

京都府下でも各地域の風土に適応した遊び歌や仕事歌が生まれました。丹後の木挽（こびき）の歌，亀岡の寒天屋節，宇治の茶摘み，伏見の三十石の舟歌や酒造歌など地域固有の仕事歌があります。ここでは，そうした民謡の中の仕事歌や遊び歌などと，歌に登場する植物について御紹介します。

京都で活躍する民謡合唱団 篝（かがり）を御存じですか？

民謡合唱団「篝」は1970年に創団，今年で47周年となる合唱団です。「民謡の発掘と再創造」に取り組み，「民謡のもつこころ」を理解するとともにその魅力を伝えようと，京都府下で採録した民謡を中心に，合唱や音楽劇（フォークオペラ）といった様々な形態での演奏や表現に取り組んでいます。

いちじく人参 ～数とり歌～（旧京都市域）

〽いちじく　人参　山椒に　紫蘇
牛蒡に　むかご　七草　はじかみ　くねんぼに
とうがらし

●京都で採れた野菜や果物の名前が数え歌になっています。羽根つき歌としても歌われたようです。ハジカミはショウガを，クネンボはタチバナを指します。京都市の他にも，舞鶴市，大江町など，京都府下全域で歌われています。

草取り唄（綾部市）

〽ヤレ様と別れて　ア草取りすれば
ヤレ手からこぼれる　アなぎの根か

〽昼になったで　ア背中が暑い
ヤレ笠（かさ）の裏手に　ア日が廻る…

●一般に，水草でナギはミズアオイを指しますが，参考文献には白い花とあるため，水田雑草のオモダカやコナギ，又は1970年頃から水田に繁茂したとされるアメリカコナギとも推測されます。

草取り唄（船井郡）

〽生えております
この田の草は
なんとそろいとおもだかと

●ソロイは一般にホタルイやクログワイなどを指します。いずれも水田の手ごわい雑草として知られています。

よいよい淀より下は～ねさせ歌～（旧京都市域）

〽よいよい　よいよい　淀より下は
やわた八幡（はちまん）　大菩薩（だいぼさつ）　大菩薩

〽むこうに見えるは　淀　鳥羽　竹田
松に花咲く　藤森（ふじのもり）　藤森

●松の花は目立ちませんが，春に雄花と雌花が咲きます。

祇園の夜ざくら～わらべ歌～（旧京都市域）

〽祇園の夜ざくら　グッと咲いた
祇園の夜ざくら　チョッと咲いた
祇園の夜ざくら　パッと咲いた
ジャンケンホイ

●祇園のサクラでは，白川沿いのサクラや円山公園の枝垂れ桜が思い浮かびます。わらべ歌として文献資料に紹介されていますが，童（わらべ）のものだけではないかもしれません。

【参考文献】京都府教育委員会「京都府の民謡-民謡緊急調査報告書」（1983）

カワラナデシコ 河原撫子（ナデシコ科　多年草）

・学名：*Dianthus superbus var. longicalycinus*
・分布：本州～九州，朝鮮・中国（本土・台湾）
・花期：7～10月
・京都府RD：記載なし
・環境省RD：記載なし

日本に自生するナデシコ属には，4種といくつかの変種がありますが，単に「ナデシコ」といえば，ほとんどの場合，このカワラナデシコ（別名ヤマトナデシコ）を指します。ナデシコは秋の七草の一つでもあります。

花は楚々として愛らしく，撫でたくなるほど可愛いという意味で「撫でし子」と名付けられたらしいことにも，うなずけます。しかし，そんな見た目や名前に反して，その性質はとても丈夫な植物です。

京都では，鴨川の河原でも自生が確認できるほか，府の草花に選定されるなど身近な植物ですが，人が管理する半自然草地が減ってきたことから生息地は年々減少しており，他県では絶滅の危機に瀕している地域もあります。

ナデシコ科の仲間は，世界中に約2,000種存在しています。観賞用として各地で古くから園芸栽培されたものも多く，洋の東西を問わず人々に愛される花の一つといえるでしょう。

中国のナデシコ-セキチク

セキチクは，平安時代に中国から渡来しました。カワラナデシコと比べて葉が鋭く竹のようで，花弁の切り込みが浅く，花の色も鮮やかなものが多いことが特徴です。カラナデシコとも呼ばれます。

究極の園芸品種 イセナデシコ

京都の宝鏡寺のイセナデシコは，有栖川宮が伊勢国から入手し，光格天皇に献上したものといわれています。花弁の先端が分化して糸状に長く垂れるのが特徴的で，境内以外の場所では育たないともいわれる希少な花です。

長谷酔華「撫子培養手引草」国立国会図書館蔵(1863)
当時流行したイセナデシコが紹介されています。

【参考文献】佐竹義輔ほか編「日本の野生植物　草本Ⅱ」平凡社(1982)p.41，有岡利幸「秋の七草(ものと人間の文化史145)」法政大学出版局(2008) p.180-183，「京都府紹介」(http://www.pref.kyoto.jp/intro/) 京都府HP

万葉集とナデシコ

万葉集の中にナデシコが題材となった歌は26首ありますが，そのうち11首は大伴家持が詠んだものです。家持は，三十六歌仙の1人に数えられる奈良時代後期の代表的な歌人で，万葉集の編纂にも深く関わったことでも知られています。ナデシコの花は，家持にとって特別な花だったのでしょう。ナデシコを愛する人に見立てた和歌や長歌をいくつか残しています。

「我がやどに／蒔きしなでしこ／いつしかも
花に咲きなむ／なそへつつ見む（巻8-1448）」
（庭にまいたナデシコはいつ咲くのでしょうか。
咲いたらあなただと思って見ようと思います。）

これは家持が15歳くらいの頃，従妹でもあり，のちの妻となる坂上大嬢に送った歌です。まだ幼い彼女を，花の咲く前のナデシコに見立てて詠んだのでしょう。

この歌のもう一つ面白いところは，この時代から山野の植物の種を「まいて」育てる習慣があったとうかがえる点です。日本の園芸史にとっても，面白い記録であるといえるでしょう。

カワラナデシコ

【参考文献】有岡利幸「秋の七草(ものと人間の文化史145)」法政大学出版局(2008) p.180-183，麓次郎「四季の花事典」八坂書房(1999) p.228-233，木村陽二郎監修「図説 花と樹の大辞典」柏書房(1996) p.320-321，鈴木武晴「大伴家持となでしこ―やまとなでしこの源泉の歌―」都留文科大学大学院紀要(2003)

箕の唄（相楽郡　山城町）

〽アー茶よりしてでも　養いますに(ドッコイショ)暑い茶こなし　やめなされ
(かえし→)養いますに(ドッコイショ)暑い茶こなし　やめなされ
〽ハー狛はよいとこ　北西晴れて(ドッコイショ)東山風　そよそよと
(かえし→)北西晴れて(ア　コラショ)東山風　そよそよと
〽ハー狛の河原の　なでしこ花は(ドッコイショ)よそへ植えたら　千よ咲く
(かえし→)なでしこ花は(ドッコイショ)よそへ植えたら　千よ咲く～…

●製茶作業の際の仕事歌で，箕を使って茶葉を選別しながら，歌い手と返しが掛け合って歌われます。

カワラナデシコの特性

◆栽培

【日頃の手入れと水やり】

日当たりの良い場所に置き，水やりの回数に注意して，やや乾燥気味に育てます。

ほふくしやすいので，柵や支柱を使って倒れないようにします。

7月に花が咲いてから切り戻すと，10月以降に2度目の花を咲かせることができます。

花後は，株元近くで切り，茎を間引くと風通しが良くなり蒸れを防げます。

春と秋の花の前に，追肥を施します。

【植え替え・用土】

毎年春には植え替えを行います。用土は水はけの良いものを使用します。

【殖やし方】

花後にできた種子を採りまきします。京都では9～10月が適期です。

また，挿し芽で増やすことも可能です。4～6月に花穂の付いていない芽を切り取り，水揚げしてから赤玉土などの用土に挿します。

その後，1週間程度は半日陰で水を切らさないようにし，発根するのを待ってから徐々に明るい場所に移します。

西洋のナデシコたち

花屋さんでよく見かけるカーネーションやビジョナデシコ，カスミソウなどもナデシコ科の園芸品種です。英語でナデシコ属はpinkといい，その語源はキリスト教の精霊降臨祭(Pinkster:オランダ語)で教会の飾りとして利用されていたことに由来するそうです。後に「ナデシコ色」の意味から，色の名の「pink(ピンク)」の語源にもなりました。

【参考文献】「講談社園芸大百科事典フルール　第3巻」講談社(1980)p.122-123

カーネーション
(ナデシコ属)

ビジョナデシコ
(ナデシコ属)

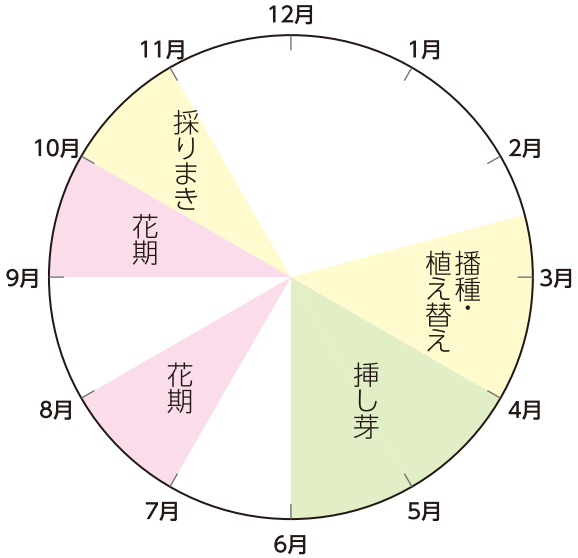
カスミソウ
(カスミソウ属)

栽培スケジュール

薬になる種子

ナデシコは，生薬として用いられることもあります。花が咲いているうちに全草を採集し，そのまま乾かしたものを「瞿麦(くばく)」，熟した果実を乾燥させて手でよく揉み，取り出した種子を天日干ししたものを「瞿麦子(くばくし)」といいます。日本では，瞿麦子の方が好んで使われ，主に尿疾患に対処する漢方薬として活用されていました。

【参考文献】松岡敏郎・山原條二「京都の薬草百科」京都新聞社(1986) p.60-61



露地に植えるときは，雑草と間違えて
抜かんように気ぃつけなあかんで。

カワラナデシコ京の口伝(くでん)

寿命は割と短いさかい，
種は早めにまいといた方がええで。

京都各地で広がるネットワーク　～和の花と文化の再生を～　最近の動き

本冊子シリーズで紹介してきた「和の花」を守り育てる活動は，市民団体，社寺，企業，学校，研究機関，行政など様々な団体によって担われ，また，団体間の協力の輪も広がっています。

このコーナーでは，京都市「京（みやこ）の生きもの・文化協働再生プロジェクト」（以下「再生プロジェクト」という。）の認定を受けた活動を含め，「和の花」保全の最近の動きをいくつか御紹介しましょう。

フジバカマ 各地で花開く 大原野に関係者集う

「源氏物語千年紀」を機に，(株)京都放送（KBS京都）が展開したフジバカマ（京都府RD:絶滅寸前種）を守るキャンペーン（2007～09年）は，梅小路公園での「藤袴と和の花展」（写真，京都市都市緑化協会との共催）に舞台を移し，育成活動は嵯峨水尾（右京区）と大原野（西京区）の休耕田，市街地の伏見区深草，上京区・中京区の界わいなどに広がっています。2016年はKBS京都開局65周年に当たり，同局の自社敷地で育てられた多数のフジバカマが，各地で展示されました。（KBS京都の活動は「再生プロジェクト」第4号認定。）

希少な自生株が1997年に発見された大原野では，2016年9月，第1回京都藤袴サミットin大原野（なんやかんや『大原野』推進協議会主催）が大原野神社で開かれ，系統保存を続けてきた藤井肇氏ら関係者，市内各地の団体が集い，「藤袴サミット宣言」を発し，活動の発展を誓いました。

キクタニギク 菊渓（きくたに）での復活を模索

京都・東山山頂付近から流れ出る菊渓（きくたに）に咲いていたと伝わるキクタニギク（京都府RD:絶滅危惧種）。近世までの東山は野菊の名所でしたが，現在は繁茂したシイ等が覆い，日照を好むキクタニギクを見ることはできません。地域，学識者，行政などが協働する京都伝統文化の森推進協議会は，2007年から東山を中心にシイ林の林相改善事業を実施していますが，菊が咲く菊渓の復活に向け，森を暗くしているシイ等を伐採し，その跡にキクタニギクを植える試みを2017年春に行う予定です。2016年11月には専門家とともに市民60人が現地の状況を調べるため，菊渓周辺を歩きました（写真）。

フタバアオイ「葵の森」の畑に次々と里帰り

葵祭に欠かせないフタバアオイとその生育環境を守ろうと，NPO法人葵プロジェクトは，里親となっていただいた団体・個人等に親株を預けて育成してもらい，上賀茂神社境内に戻す活動を，2006年から続けています。2015年以降は「葵の森」の畑の充実を図り，潅水装置を設置。また，緑のボランティア団体の協力で徐々に面積を拡大しています。同プロジェクトのサポーター会員，支援企業，静岡県など徳川家ゆかりの地の小学生などが育てたフタバアオイが「葵の森」の畑に帰り，次の年の葵祭や保全活動にいかされています（写真は2016年5月の葵の奉納式）。

生きものと地球環境に配慮した都会の森

精密機器メーカーの(株)島津製作所は，本社・三条工場（中京区）の建替えに合わせ，2014年，「人と地球にやさしい森」をコンセプトに，在来種を中心とした「島津の森」（約8千㎡）を整備（写真）。2015年，この森を含む構内の緑地が京都府内では初めて「ハビタット評価認証（JHEP認証）」の最高ランクAAAの認証を受けました。また，2015年に100株のフタバアオイの里親となり，2016年は自生種フジバカマ50株を植栽。（「再生プロジェクト」第13号認定。）今後も，同社は「島津の森」をいかし，京都ゆかりの希少植物の保全にも積極的に取り組まれるそうです。

雨を活かし和の花を育む大学キャンパスの雨庭

京都学園大学が2015年に開設した京都太秦キャンパス（右京区）に，「雨庭（あめにわ）」が整備されました（写真）。「雨庭」とは，雨水を活用しながら植物の生育を可能にし，豪雨対策など防災やヒートアイランド現象緩和などを図る緑地のことで，今後の普及が期待されています。造成には学生，教員も参加し，京都の樹木の地域性種苗やキクタニギク，フジバカマ，ヒオウギなど多様な草本類を植え，学生が生育状況などをモニタリング（継続調査）しています。京都太秦キャンパスの「雨庭」は，一般の方も見学することができます。

◆京都市都市緑化協会はこれらの活動との連携や支援を行っています。